

## 車座トーク（自治会と市長との意見交換会）開催報告

対象地域：志戸呂自治会

開催場所：番生寺会館

開催日時：平成 28 年 11 月 9 日（水）19 時 00 分～20 時 56 分

参加者：自治会側【地域住民の方 18 人】

市側【染谷市長、牛尾理事、鈴木市長戦略部長、眞部危機管理部長、三浦秘書課長、秋山協働推進課長、浅田金谷南北地域総合課長】

## 内 容

### ① 杉本自治会長あいさつ

- ・皆さんの忌憚のない御意見をいただければと思う。
- ・和やかに、最後まで楽しく進めていきたいと思うのでよろしくお願ひしたい。

### ② 市長からの市政報告

#### ■はじめに

- ・今までは『市長と語ろう』ということでやってきたが、呼んでいただくところと呼んでいただけないところがあったため、この車座トークは、市内全ての 68 自治会をまわるといふことで実施している。
- ・また、今年と来年の 2 年をかけて次の総合計画（H30～37）の策定作業を行っているが、この他にも、国土利用計画島田市計画や中心市街地活性化基本計画、公共施設再配置計画などの策定もしていく必要があることから、各地域の課題、さらにはどのような取り組みをしているのかを耳で聴き、肌で感じて、それを市政に反映したいといふことでまわっている。
- ・アメリカ大統領選挙の結果、博多駅前での陥没事故、イギリスの EU 離脱など、まさかこんなことが起こるとは思わなかったことが起こっている。まさに様々な変化が世界（社会全体）の至るところで起こっている、動いていると思う。

#### ■志戸呂自治会の人口、世帯について

- ・志戸呂自治会の 10 月 31 日現在の世帯数は 356 世帯、人口は 1,062 人で、高齢者人口（65 歳以上）は 338 人、高齢化率は 31.8%となっている。市の平均が 29.5%、市の平均とほぼ同じとなっている。15 歳以下の人口は 148 人で人口に占める割合は 13.9%となっている。市の平均は 13.7%なのでほぼ平均的な数となっている。うまく世代交代ができていく地域であると思っている。

## ■地域の抱える課題等について

- ・島田に限らず、日本中で今、一番課題となっていることは人口減少。
- ・10万人の人口が2060年に8万人とする計画をたてたが、何にもしないと6万人くらいになってしまう。国も8,000万人を切るのではないかとわれている。このために地方創生総合戦略に基づく施策に取り組んでいる。
- ・税収も減って行って、高齢者が増え、福祉、医療、介護の経費は増えていく、教育、子育て施策にも力を入れなければならない。
- ・コンパクトな税収の中で、行政もやらなければいけないことがたくさんある。そうした中で、今までのように行政に任せておけばいいという時代ではなくなっている。
- ・先ほど市の課題が「財政難」というお応えもいただいたが、高度成長期に国から補助金がもらえるということで、身の丈以上のハコもの、インフラを整備してきた。こういったものに掛かる維持管理経費は造る時よりも数倍の経費が掛かる。国も国民一人当たりの借金が826万円ということが報道されているが、これからの時代、プライマリー・バランス（お金の出と入りを近づけていく）の方策が必要となっている。
- ・公共施設は276施設663棟の建物がある。この施設に係る修繕費の費用はこれからの40年間で2,515億円かかる。年間63億円にもなる。今は維持管理・更新に年間36億円かけているので、その1.75倍となる。このことから、施設のあり方の検討をしていかななくてはならない。
- ・長寿命化と言って、徐々に更新していく方策に取り組んでいる。一つの施設に多機能を有したものにしていく必要もある。
- ・今後40年間で公共施設を2割くらい減らしていかなければならないという試算も出ている。
- ・島田市の道路延長は約1,180km、橋は1,154橋で、5年に一度の点検が法律で決められている。すでに、新しいものを造るよりは維持（長寿命化）していくことがメインとなっている。新たな道路をつくるよりも長寿命化する時代となっている。
- ・行政も人口も緩やかに減り続ける中、高齢者が増えるということに対応するため、子育て施策をはじめ、医療、介護、教育などの施策により、市民の皆様が安心して住み続けられるようにすることが行政の基本ベースにあると考えている。
- ・一方で、2030年くらいには、働いて税金を払ってくれる人の数が減っていく。（人口の約半数になると推計されている。）
- ・市長になった翌年に、消滅可能性都市というものができて、全国自治体の約半数（896自治体）が30年後には消滅するかもしれないと言うショッキングなレポートだった。このレポートの趣旨は、若い女性がいらない都市はいずれ消滅するというものである。
- ・若い人に選ばれるまちになるためにどうしていったらいいかということは、これからの行政の大きな課題である。
- ・1975年から子どもの産まれる数は減っていて、2007年から日本の人口も減っていた中、日本中が何も手を打たなかったのに、このレポートが発表されてから日本国中が「地方創生」という流れになった。
- ・県の来年度の予算が各部局の要望を積み上げると収入が600億円足りないという報道があった。
- ・国も2025年に団塊の世代の方が全て後期高齢者のなること、2030年から日本の人口が急激に減ってくることを踏まえ、医療、介護制度を見直すことを検討している。特別養護老人ホームへの入所も要介護3以上の介護度がないとできないということもいわれている。保険料の負担率の引き上げも想定され

る。

- ・島田の自治体は、それぞれの町内の自治が集って志戸呂自治会になり、68の自治会が集って島田の自治体になっている。35の自治体が集って県になっている。
- ・ご町内が地域で助け合う活動ができれば、選ばれるまちになっていくと考えている。
- ・例えば、高齢者が免許を返納した時に、市がワゴン車と保険とガソリンを負担して、地域の足を確保するために、地域がボランティアなどの運転手をお願いしていくことも計画している地域もある。このように、地域の課題を自分たちで解決していくことを行政として最大限支援していく。
- ・地域の助け合いの事例として、ある地域では、500円の券などを活用して、地域の人達で助け合う生活支援のサービスを行っていく計画がある。元気な高齢者はサービスを提供し、たとえ500円でも収入になる。(道悦島の事例)
- ・蛍光灯の取替えや重いものを持たないなど、生活で困っている方を地域で助け合うサービスの取り組み。
- ・高齢者が、公民館で放課後児童クラブを行っているところもある。隣接地域の小学校の放課後児童クラブに児童を送迎することを地域住民が行っている事例もある。
- ・地域の皆さんが、地域を良くしたいと「自分ごと」として感じられる市民が増えていくとまちは変わると思う。行政も一緒にやっていく。
- ・公園のフェンスの修理について順番を待っているといつになるかわからないが、市が原材料費を支給して地域の皆さんに直してもらおうのであれば、市はご協力できる。そういった方法もあるのではないか。
- ・また、まちづくり支援事業交付金は6年間、180万円補助できる仕組みに見直した。
- ・どういった方法があるのかということも含めて、行政も一緒になって考え、行動できると思っている。

#### ■金谷地域の取り組みについて

- ・国道1号バイパスの4車線化、菊川インターのフルインター化などは早期に完成できるよう、継続して予算の確保も含めて国に要望をしている。
- ・御前崎港⇒菊川IC⇒大代IC⇒新東名という大災害時における「命の道」がつながるといことで国への要望を積極的に行っている。
- ・4車線化に伴い、大代ICのランプも大きくすることによってJAの移転も必要となったことにより賑わい交流拠点の構想にもつながってきている。
- ・藤枝バイパスの4車線化についても、島田バイパスの4車線化に伴って、その先の道路の整備によって円滑に車両が通行できるよう国への要望を行っているところである。
- ・国道473号の4車線化について、最初に実施したい箇所として、主要地方道焼津森線と市道島竹下線の交差点の改良を実施していきたい。

#### ■賑わい交流拠点の整備について

- ・NEXCO 中日本、大井川鐵道、JA 大井川、島田市の4者が連携し、新東名高速道路島田金谷IC周辺に、地域の特産品を集めた販売所や、カフェやレストラ

ンなどが入る施設を建設する予定。売り場面積が今のところ 1,400 ㎡ということで、日本一となるマルシェとなる見込み。大鐵は新駅建設も検討している。

また、市は、新東名の下に、国の占用許可をとって、約 1,000 台弱の駐車場を造る予定となっている。(今後、新東名のバス路線を見据えた計画でもある。)

- ・基本計画の内容については、11 月から 12 月ごろにはメディア向けに発表できる段階になっている。
- ・国一バイパスの 4 車線化に伴い、大代インターチェンジの改良も必要になると JA 大井川五和支店の移転も必要になるのではないかとと思われるので、JA の視点の交流拠点の中に組み込むことも考えている。
- ・奥大井につながる観光の拠点であり、大井川流域の農産物をここに集めて売る。
- ・最短で平成 30 年 5～6 月に着工できる計画で頑張っている。
- ・最近国土交通省も「パークアンドライド」といって、一端料金所を降りても、通過したときの料金と変わらないシステムも考えていることの報道もあった。こうしたことも視野に入れていきたい。
- ・首都圏からの観光バスの往復 500 km の位置として、交流拠点の位置あたりになるので、バスを降りてつながる観光の拠点とすることに加えて、空港周辺のこの地域にも交流人口の増加につながる動線を考えていきたい。

#### ■新東名島田金谷インターチェンジ周辺の開発について

- ・84ha を内陸フロンティア地域として開発することを考えている。農振除外ができるかということと、大井川土地改良区の受益地になっていることへの対応という課題がある。
- ・何とか今年度中に目途をつけて、にぎわい交流拠点とともに、企業誘致を進めていきたい。現在、企業に戸別訪問しながら頑張っている。
- ・(賑わい交流拠点、新東名島田金谷インターチェンジ周辺は、) 島田の活路を見出していく地域である。
- ・牛尾山の開削が平成 30 年度に事業が終了する。川幅が広がることによって、洪水に危険性も少なくなることからそのストック効果を国への要望時にも訴えていきたい。ただ単に造ってくださいと要望してもその要望は通らない。その道路を造ることによって、雇用の創出や渋滞の解消、企業の進出数など数値で効果を表さないとならない。(ストック効果を示していく必要がある。)

#### ■金中跡地の開発について

- ・かつては、コンベンションホール、ツインメッセなどの構想から 8 年の歳月が流れた。交流人口を増やす目的で国費(補助金)をもらって整備をしてきている場所であるため、その趣旨にあうものにしていく必要がある。
- ・昨年アイデアコンペを実施し、今年是有識者会議を開催し、11 月末には旧金中跡地に係る基本計画がお示しできるのではないかと考えている。
- ・今、マーケットサウンディング(ゼネコン、土地の開発業者、金融機関などに声を掛けて現地をみてもらい、どのような開発に適しているかを、その周辺のティーガーデンシティ構想(風の郷)として指定されている地域ということも勘案して提案すること。)を行った。

・我々はロケーションやお茶の郷との連携も考えると素晴らしい場所だと考えているが、マーケットサウンディングでは、商業施設などは難しいという意見をいただいている。こうした中、8年前の計画（約束＝底地は市が用意して上物は県が建てる）が果たせないため今に至っている。県はその約束が果たすことができないことから、民間活力をもって交流人口を呼び込むような施設を造っていきたいと考えている。そこに行政的機能を付加したいと考えている。何もしないでそのままにしておくわけにはいけない。

#### ■お茶の郷について

- ・お茶の郷は今年の6月1日に県に移管した。島田市が所有するよりも県営のお茶の博物館になるほうが、発信力、財源の確保の点に加え、県知事は、花の都は浜松、お茶の都は是非、島田市へという要望をして実現した結果である。
- ・県の話では、再来年の春（仮称）ふじのくに茶の都ミュージアムとしてリニューアルオープンとなる予定。県が所有しても全国的にも例を見ない、お茶の専門の博物館ということであるので市も連携を図っていききたい。
- ・県が持つことによって情報発信などにおいて効果的であることがあげられる。お茶の薬能などお茶の機能性という分野を追加することも考えられる。

#### ■牧之原公園の整備について

- ・工事期間は11月1日から2月28日までとなっている。（公園内に工事の看板が掲示されている。）
- ・懸案のトイレについては、解体して展望台の部分を含めて今のトイレの方まで延ばしてトイレは道路側に新設する。フェンス、椅子の取替えも行う。
- ・このように公園全体を一体整備することは滅多にない。これは、牧之原公園が夜景100選ということに加え、お茶の郷（6月から県へ移管）、旧金中跡地と一体となった整備に相応しい公園としていくための投資である。

#### ■島田市産業支援センター（おびサポ）について

- ・年間1,200件の相談を見込んでいたが、10月末で1,650件となっている。年間では当初の目標の倍くらいの件数になると考えている。
- ・経営の相談、起業、創業の相談、補助金の相談、企業同士の連携の相談、農業経営の相談など多岐にわたっている。市外の方の相談もあるほど盛況である。
- ・市内中小企業が1社1人の雇用が増えれば、100社あれば100人増えることになるので、地元企業の体力をつけていただき、島田市が元気になることに「てこいれ」していきたい。

#### ■市民会館について

- ・現在、解体は終了して更地になっている。今年度中には舗装をしていきたい。帯桜があるところは、少し広めの帯桜パークのようなものをつくって市民

の憩いの場やイベントの場として活用してもらえるようにと考えている。当面の間は、駐車場、賑わい広場、中心市街地の防災の避難地として使っていく予定。

- ・市民会館は県内でも早く建設され、音響設備など立派な建物であった。私たちの誇りでもあった。早くできた分、老朽化も早く耐震性もないことから、今回解体するという決断に決めた。(年間のホールの稼働日数は30日、リハーサルも入れても60日程度となっている。)
- ・これに対して、同じものをつくるとなると、70~80億円、100億円という事業費になることから、病院建設をまず優先して行うことを選択した。病院に目途が立った段階で、市民会館と市役所(築53年)、おおり(築34年)については建設検討委員会を立ち上げていきたい。

#### ■金谷庁舎について

- ・金谷庁舎は、合併する時には耐震補強して使うということを知っているが、前の市長のときにそれはしないということで、支所を2箇所整備した。
- ・金谷庁舎のエアコンが昨年壊れ、修理費に6,000万円もかかるということだったが、耐震性のない建物に、それだけの投資はできないということで修理はしていない。
- ・金谷庁舎については、現在、おおりに入っている社会福祉協議会が市民会館の向かい側に移転する。(11月上旬)。社会福祉協議会が出たスペースに教育委員会を移転する計画である。(年明け)耐震性のない庁舎での業務には課題もあること、しかもあの施設を耐震化することは莫大な費用がかかる。さらに配管等の設備の老朽化が進んでいる。
- ・こうした中で、一度おおりに教育委員会を移していく。金谷庁舎の機能(整備)については内部で検討しているが、一つ方針が決まっていることは、南支所、北支所を今の金谷庁舎の跡地に一本化させていただきたいということ。旧金谷町と旧五和村が合併した融合の地に金谷庁舎があるという点に加え、行政効率も考慮するとあの地に支所を設けていきたい。金谷庁舎の跡地には民間活力を導入して複合施設等を検討したい。議会には、健康・福祉の機能という説明をしているが、市民の皆様の声も聞きながら検討を重ねていきたい。
- ・今の支所の施設は、地域貢献に値するような施設としての活用を考えていきたい。例えば北支所は放課後児童クラブを併設しており、子どもが安心して過ごせる場とする方法もある。地域にとって使い勝手のいい施設となるように地元の皆さんの声を聞いていきたい。

#### ■教育への取り組みについて

- ・アクティブ・ラーニング(動きながら学習すること。)の取り組みが始まっている。(国語の授業でさえも。)
- ・小中学校の連携、ICT教育、英語教育などの充実も必要であると考えている。
- ・子どもには子どもにふさわしい教育環境があって、多様な価値観に触れる環境も必要であると考えている。

#### ■金谷地域への取り組みについて

- ・金谷は合併して何もいいことがないといわれてきた。今となってみれば、市内で一番発展する可能性がある地域となってきた。

- ・道路を造るのにも10年ではできないが、そうした中、要望活動を積極的に行っている。
- ・国も県も道路などを造る予算は15年位前に比べ約3分の1程度しか確保できなくなってきた。今までは、新設の道路を造ってまちを拡大していったが、これからはそういった道路などをどれだけ長持ちさせるかという長寿命化に経費を配分しなければならない。
- ・国もその道ができたならどれだけの効果があるかということデータを示すように指示をしてくる時代になった。ただ単に造ってくださいと要望してもその要望は通らない。その道路を造ることによって、雇用の創出や渋滞の解消、企業の進出数など数値で効果を表さないとならない。(ストック効果を示していく必要がある。)結果も求められている。
- ・やりたいことはたくさんあるが、選択と集中を重ね、ここにはこういうお願いができる、成果も出せるということまで確認しながら事業を進めている。
- ・にぎわい交流拠点の計画も、内陸フロンティアの取り組みも、牛尾山の開削と大きなつながりがある。牛尾山の開削は平成29年度に事業が終了する。通常時の川幅は変わらないが、大雨が降ったときなどには、開削した部分までが川幅になることによって、洪水の危険性が極めて少なくなる。川の流れが変わる可能性があるため、対岸の神座地先にも護岸工事を実施している。
- ・諏訪原城址については、大分整備されてきている。日本でも有数の山城である。あそこが整備されると、金谷地域をいろいろな人が動き回ることができる魅力のある地域になると考えている。
- ・SLのトーマスも来年以降、運行を続けるということも決まった。金谷駅への乗り入れは、金谷駅のホームが2両分しかないが、機関車は7両編成で運行をしていることから難しいと考えている。

③質疑応答

番号	質問内容	回答内容
1	■国道473号、国1バイパスの4車線化の整備について 工事の完了見込みはいつか。	●昨年までは、国1バイパスの4車線化の工事完了見込みは、平成30年代半ばと言われていたが、今年になって平成40年と言われた。 473号は事業着手しているが、はっきりしたことは申し上げられないが、10年くらいかかることも考えられる。 国の道路予算が絞られている中、国直轄の高規格道路が優先されている。 しかし、地方道も大事であることを強調し要望をしている。(生活に直結している。)今後10年くらいになるが、国が予算を付けてくれなければ進捗しない。そのために要望している。
2	■金谷庁舎に代わる施設について 旧金谷町で活用した施設はたくさんあるが、せっかく合併したので、	●市内全域の施設が何年経過しているか、維持管理費、稼働率など調べて公共施設白書として出している。インターネットで公開しており、支所で

	<p>利用状況などを精査していく必要があると思う。</p> <p>金谷庁舎に代わる施設も、みんくるを改築していくとか、夢づくり会館も合併前よりも利用率が減っていると思うので、調べて進めていく必要があると思う。金谷庁舎はつぶしても、なおしても大変。11年経っているの。</p>	<p>も見るができる。</p> <p>白書を踏まえて、施設数は減っても、一つの施設に機能を加えていくような検討をしていく。</p> <p>金谷庁舎に代わる施設をみんくるや夢づくり会館で補っていくという御意見はありがたい。こういった御意見は初めて。御意見をいただいたことも踏まえ金谷地域の皆さんにご説明できるようにしていく。勇気付けられた。</p>
3-1	<p>■インター周辺の農振除外について</p> <p>84haの農振除外は具体化しているのか。</p>	<p>●84haを除外することはこれまでからすれば考えられなかったこと。</p> <p>県の強力なバックアップの下、白地になっても5年そのままにしておけば、また元に戻ってしまう。</p>
3-2	<p>■具体的に利用計画はあるのか。</p>	<p>●計画を下に農振除外の許可をいただきたいと思っている。</p>
3-3	<p>■インター周辺というところの辺か。</p>	<p>●新東名の北東エリアといったらお分かりになると思う。牛尾山と一豊堤を含む。</p>
3-4	<p>■国道473号の西側は、宅地も少なく除外できれば企業誘致には適していると思うが。</p>	<p>●当市の内陸フロンティアの地域は、他の地域にない魅力がある。大井川の伏流水による良質な水が豊富であること。150m間隔でも井戸が掘れること。企業にとって魅力的な地域である。</p> <p>地域の皆様にも入っていただいて、内陸フロンティアの玄関口、企業を誘致するゾーン、居住スペースなどゾーニングした。</p>
3-5	<p>■84haの除外も難しいが、そこを開発することも大変なこと。民間のディベロッパーに入ってもらおうということは考えているのか。その交渉はしているのか。</p>	<p>●交渉はしている。全体を民間ディベロッパーということは難しい。住宅地もあり、基盤整備は市が行う必要がある。</p>
3-6	<p>■企業エリアとして公開して募集をしているのか。</p>	<p>●具体的に企業と交渉している。約20社とディベロッパーとも話をしている。民間も先行きが見えない中で5年は待てないというお話もいただいているため、スピード感を持って進めている。</p>
3-7	<p>■津波の被害などを想定して進出する企業があるのではないのか。</p>	<p>●進出する企業から見て、一番はそこに働いてくれる人が住んでいるかである。そういう都市がそこにあるかどうか、そういうことが進出する時の決め手となるそうだ。</p>

4-1	<p>■国道 473 号の交差点改良について 完成はいつか。</p>	<p>●即答はできないが、測量、用地交渉は進めている。これに合わせて、島田市は市道島竹下線の改良工事に着手している。移転する用地も確保している。</p>
4-2	<p>■焼津森線はどこにつながっているのか。</p>	<p>●水路橋のところで途絶えている。</p>
4-3	<p>■国道 473 号が防災道路としても機能するとしたとき、無電柱化の計画はあるか。</p>	<p>●国道 473 号の 4 車線化は、大代インターから新東名までの間であるが、無電柱化の計画はない。</p>
4-4	<p>■防災道路という限り電柱が倒れたら用をなさない。</p>	<p>●野田インターから大井川の河川敷までの間で整備を進めているが、平成 29 年度には完了する予定。4 車線化が先になっている状況。一緒にやればいいが。</p>
5-1	<p>■金谷駅周辺の整備について 金谷駅の駅舎の整備、ロータリーの整備の予定はあるか。金谷駅は貧弱である。観光客がトイレを探しているし、汚いとの声も聞いている。</p>	<p>●改札を入った中に、ユニバーサルのトイレを整備した。また、エレベーターを設置し利便性を向上させている。 JR は、お金を出すのはこっちだが、使う業者まで指定してくる。もともと、利用客数からエレベーターも設置できなかったが、なんとか改善したところ。外側のトイレは JR の財産なので、直すまでに至っていない。</p>
5-2	<p>■中のトイレは使っていない。</p>	<p>●わかりました。駐車場のスペースがなかなか取れないことがネックとなっている。</p>
5-3	<p>■通勤通学の車が多い。事故の発生が懸念される。</p>	<p>●金谷地域は非常に教育熱の高いところ。人口は島田地域の方が多いが、静岡の私立の小中高校に通っているお子さんの数はほぼ同じ。</p>
6-1	<p>■大代川の浚渫について 大代川は草が生い茂っている。谷北はユンボが入ってやっているが、申請を出さなくても市で頭に入れておいてもらって定期的にやってほしい。</p>	<p>●大代川は県管理の河川である。浚渫の予算も驚くほど少ない。災害になるという危険性を訴えて要望を伝えているが、伝えなければ「やらなくていい」と思われるので要望を続けていくとも大事。</p>
6-2	<p>■きれいになったところを見てしまっているのです。</p>	<p>●緊急を要する事項であれば、すぐに電話をいただければ対応する。</p>
7-1	<p>■人口減少について 静岡からの電車の乗客のうち 8 割は藤枝までで降りる。 藤枝、島田間は電車で 10 分。なんで藤枝に人口が多いかということ</p>	<p>●理由の一つに運賃があると思う。片道 100 円違うことが大きいと思う。六合、初倉地域は人口が増えている。 藤枝も課題がある。よそからの流入による地域は地域コミュニティが成</p>

	<p>が疑問。</p>	<p>り立たない。ここには地域課題を地域で解決していくマンパワーがある。 島田は島田の良さがある。島田は老舗の伝統、文化力がある。蓄積された住民パワーが発揮できる地域で、21世紀型の地域である。</p>
<p>7-2</p>	<p>■藤枝は確かに地域コミュニティは薄い。島田の良さに一つに市民病院がある。藤枝の住民も藤枝、焼津の病院に行くなら島田市民病院に行くと思っている。</p>	<p>●安心・安全に力を入れているため、ダヴィンチという医療機器も導入した。3億5,000万円ほどする。前立腺がんなどの手術において、出血や痛みが少なく、子宮頸がんや胃がんなどの保険適用も期待されている。いい医者も集めていきたい。島田、金谷地域は人が育っているところだと思っている。市民が手を挙げてやりたいといって頑張れるまちであると思っている。</p>
<p>8</p>	<p>■防災対策について 広報しまだの市政羅針盤に耐震性のない木造住宅が7,000棟あるということで、地域でも防災訓練を夜間に実施したり工夫をしている。しかしながら、インパクトがないと感じている。昭和36年水害があったがそれ以降はない。訓練の内容や、各地域での記録を自治会同士で共有できればと思っている。</p>	<p>●各地域の内容は開示している。県内での取り組みについてもお知らせしている。金谷地域は、地形形状、土砂災害が心配される場所もあることから、災害意識の高い地域である。 11月11日にこの地域で土砂災害防止法の改正に伴う説明会を行う。 また、各地域にあった避難計画や防災マップの作成などをサポートさせていただくので、危機管理課を使ってほしい。 避難勧告、避難準備情報が出る出ないに関わらず、自分の命は自分で守ることを皆さんで助け合って取り組んでいただきたい。日ごろからの備えなど一人ひとりの防災意識を変えていかなければならない。 自宅で避難をしていただくことが基本。島田市民10万人が避難できる場所はない。そのために、家具の転倒防止やガラスの飛散防止などの対策をお願いしている。基本は自分のうちで暮らすことである。支援物資は二次避難所的な場所は市内にあるが、大規模災害の時には、プッシュ式の支援ということで、島田はローズアリーナに物資が届くが、その物資を市が届けていく。避難所にいなければ物資が届かないわけではない。 大雨の時の避難については、近くの安全な場所のほうがいい。南海トラフの地震であれば、この地域は一週間孤立する恐れがあるため、一週間分の飲み水を確保してほしい。</p>

		<p>南相馬に行ってきたが、人間は助け合うことが大切であることについて年齢を問わず考えている。</p> <p>地域の安心・安全は皆さんでつくっている。弱い立場の人が暮らせるのも皆さんのおかげ。そうした地域でないと安心して住み続けられる選ばれる街にならない。島田では結婚している人は2人以上の子どもを産んでいる。子どもが減っている要因は、生涯結婚しない人が増えていることと晩婚化があげられる。子育てという面では、子育てしやすいまちであるということを目指している。市内で一番大きい小学校は金谷小学校。</p>
9-1	<p>■コミュニティバスについて</p> <p>乗客がほとんど乗っていない。運転手も可哀想。統計をとるなど改善していく方法があるのではないか。無くせとまではいわないが。</p> <p>地域でバス（ワゴン）を走らせることは可能か。</p>	<p>●地域で車を使って走らせることは可能である。自治会も有償運送に乗り出せるように法律が改正されている。</p>
9-2	<p>■コミバスも駅を中心に考えた方がお客が増えるのではないか。</p>	<p>●今は駅を中心として路線を設定している。</p> <p>コミバスの本数を増やしてくれ、路線を変えてくれとか要望をしてくれる皆さんも、市役所に来るときには自家用車で来る。やはりみんなで使う努力は必要であると思う。コミバスの経費は年間2億4千万円である。もっと便数を増やしてほしい、免許を返納したので足がないなどの御意見もあるが、公共交通の視点で考えれば、採算ベースにあうような方法をとらざるを得ないが、福祉や高齢者支援という視点で考えるのなら、4億円、5億円になっても本数増やしては知らせるといふ市民の御意見なのか、乗っていないなら小さなバスでもいいのではないかという考えで行くのかということをも市民の皆様にも考えてもらいたい。できるだけ皆さんの御要望を聞きながら改善を重ねている。</p>
10-1	<p>■文書の配布量について</p> <p>金谷庁舎の件については、丁寧に説明されたので質問がなくなった。</p> <p>市役所から、文書配布する担当に配送され、区長から各班長、住民という流れで配布される。その際の資料が多すぎると思う。実際にこんな</p>	<p>●文書の配布日については、地域住民の皆様の御協力なくてはできないものであり大変にお世話になっている。広報しまだは、昨年も内閣総理大臣賞を受賞した。お伝えしたいものだけを記事にしている。記事の内容も社会性に飛んだ内容もあるしターゲットを絞った話題などもある。経費節減</p>

	<p>に資料が必要なのかと疑問をもってしまう。文書量を減らせば経費が縮減できるのではないか。</p>	<p>ということでは印刷代も工夫して対応している。広報しまだを読んでいただいている割合は県内一だと思う。</p>
10-2	<p>■けちはつけるつもりはないが、広報しまだと一緒に配布される資料を厳選してほしい。8種類くらいあると思うが多い。</p>	<p>●例えば、「ちょうしんき」の裏面には市民病院の診療科目ごとに紹介状が必要かどうか記載されている。こういうことも大きな情報の一つ。</p>
10-3	<p>■そういう内容は逃さず見ている。</p>	<p>●皆さんの負担にならないよう厳選に努める。</p>
11	<p>■国1バイパスの歩道について 子どもがバイパスの歩道を使って通学している。(自転車) 道が悪いことに加え、柵(欄干)が低く落ちそうで怖いとのことであった。4車線化が先となると思うが、できるだけ早く対応していただきたい。</p>	<p>●市道ではないがお願いを伝えていく。子どもの安全は重点施策なので国にも伝えていく。</p>
12	<p>■島田市緑茶化計画について お茶は青息吐息でやめる人が多い。耕作放棄地も目立つ。主に力を入れて、基幹産業なのでお願いしたい。緑茶化計画の内容も教えてほしい。</p>	<p>●島田市緑茶化計画は島田は緑茶の街ということアピールするためのシティプロモーション(キャッチフレーズ)。 内容は、海外、国内、市内の3段階にわけている。 海外に向けては、有機農法を推進しながら、売れるお茶を作っていくということ。国内向けは、我々がどれだけ緑茶にこだわる文化をもっているかということを発信している。プロモーションビデオが15秒もので6本製作した。お茶へのこだわりやお茶のエピソードによってまちの位置づけ、島田は緑茶の街ということ売り込むツール。 ポストを緑色にしたり、ロゴマークのネクタイの製作など、おもしろおかしくある種の仕掛けによって島田を紹介していくもの。 こういう取り組みを通じて、住んでいる人に誇りや自慢をつけていく、街を元気にする宣伝効果と考えていただきたい。 茶業については、西原地区では4.2haの茶園を集約して、新しい品種、輸出用の茶葉を栽培する。若い人が農業で食べていける取り組みをはじめている。農業後継者でいえば、金谷地域の若手は元気がある。そうしたやる気を結果につなげていきたい。無農薬の検査費用などへの補助もしている。また、耕作放棄地を農地に戻すという取り組みについては内閣総理大</p>

		<p>臣賞を受賞した。耕作放棄地専門の支援員も配置している。今までは生産者中心に支援してきたが、お茶は出口である茶商も含めた支援をしていくことが求められる。そうしないとお茶は売れない。茶草場農法で手間がかかり、生物多様性に寄与しているが味は変わらない。そのお茶を買ってもらい取り組みも必要。茶業振興の取り組みが待ったなしであることは承知している。</p>
13	<p>■市の観光資源について 島田に来た方を連れて行く場所が蓬萊橋しか思い浮かばない。 諏訪原城の整備もするので、PRを考えていただきたい。</p>	<p>●諏訪原城は山門の復元も考えている。復元できるものは復元して、宣伝をしていきたい。今でも山城を研究している人などは来てくれている。 蓬萊橋は、これまでは国土交通省の所管であり、なかなか物を建てることができなかった。規制緩和もあり、ずっとお願いしてきたこともあり、物を建ててもよいという許可をいただいた。ミズベリングという協議会をつくり、答申をいただいた上でお休み処と、物品販売する場所を造りたいと思っている。 島田市の観光資源の上位2つは蓬萊橋とSLである。</p>

※ 回答は全て市長から回答した。

④当日の様子

